

TORAY

Innovation by Chemistry

東レグループ滋賀 環境・社会活動報告書 2021



東レグループ滋賀各社

東レ（株）	（株）東レリサーチセンター	東洋実業（株）
東レ・オペロンテックス（株）	（株）東レシステムセンター	滋賀殖産（株）
東レ建設（株）	東レエンタープライズ（株）	東レテクノ（株）
東レエンジニアリング（株）	（株）東レ知的財産センター	

目 次

- ◆ ごあいさつ p 1
 - ・ 滋賀事業場の概要

- ◆ 環境保全への取り組み p 2～p 9
 - ・ ISO14001登録証
 - ・ 環境方針
 - ・ 水質汚濁防止
 - ・ 騒音防止
 - ・ 大気汚染防止と省エネルギーの推進
 - ・ 産業廃棄物の削減
 - ・ 化学物質の排出・移動量の管理
 - ・ 環境会計

- ◆ 労働衛生への取り組み p 1 0

- ◆ 地域社会とのコミュニケーション p 1 1～p 1 2

- ◆ 安全・防災への取り組み p 1 3～p 1 4

- ◆ 緑化推進 p 1 5

ごあいさつ

東レグループでは、「安全・防災・環境保全」「企業倫理・法令遵守」をはじめとしたCSRの推進を経営の最優先課題として位置づけ、グループ全体の共通認識として浸透させ、社会的責任を果たす企業として業務を推進しております。

当事業場は、1926年に滋賀県大津市に創立して以来、日本最大の面積を有する琵琶湖の恵みを受け、事業活動を行ってまいりました。

現在、原材料の調達から製品の研究・開発、製造、供給、廃棄に至るまでのすべてのプロセスにおいて、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムの活用を通じ、廃棄物の削減、省エネルギーの推進、化学物質の排出量削減などの環境目標を掲げ、環境保全・環境改善について積極的に取り組んでいます。

本報告が、東レグループ滋賀事業場の環境・社会活動を皆さまにご理解いただく一助となれば幸いです。



滋賀事業場長
大村 昭洋

滋賀事業場の概要

■所在地 滋賀県大津市園山一丁目1番1号 ■沿革

■敷地面積 約84万m ² （約25.5万坪）	1926年	東洋レーヨン(株)設立
■主な製品	1927年	滋賀工場完成、レーヨン糸初紡糸
＜繊維＞	1959年	ナイロン糸の生産開始*
スエード調人工皮革“ウルトラスエード”	1963年	ポリエステルフィルム“ルミラー”生産開始*
ポリエステル長繊維不織布“アクスター”	1966年	ポリオレフィン発泡体“トーレペフ”生産開始
＜樹脂・ケミカル＞	1971年	人工皮革“ウルトラスエード”生産開始
ポリオレフィン発泡体“トーレペフ”	1975年	ポリエステル不織布“アクスター”生産開始
＜電子情報機材＞	1979年	電子材料製品の生産開始
カラーフィルター“トプティカル”	1983年	コンポジットの生産開始
半導体用コーティング剤“フォトニース”	1986年	家庭用浄水器“トレビーノ”生産開始
感光性機能材料“レイブリッド”	1989年	高性能クリーナー“トレシー”生産開始*
感光性ポリイミド接着シート“フォルダ”	1993年	“トレミキシン”生産開始*
＜水処理・環境＞	1994年	高性能エアフィルター“トレクリーン”生産開始*
家庭用浄水器“トレビーノ”	1996年	TFT用カラーフィルター“トプティカル”生産開始
＜医薬・医療＞	2001年	PDPペースト生産開始*
コンタクトレンズ“ブレスオーハードCL”	2008年	ポジ型“フォトニース”生産開始
＜複合材料＞	2012年	有機EL材料新工場生産開始
炭素繊維成型品“トレカ”カーボンペーパー	2013年	感光性機能材料“レイブリッド”生産開始
	2019年	未来創造研究センター開所

*印は、国内外の他工場へ移管もしくは収束

環境保全への取り組み

滋賀事業場では、1969年に安全衛生環境委員会を設け、構内関係・協力会社を含めた全従業員で『安全・衛生・防災・環境』の活動に取り組んでおります。

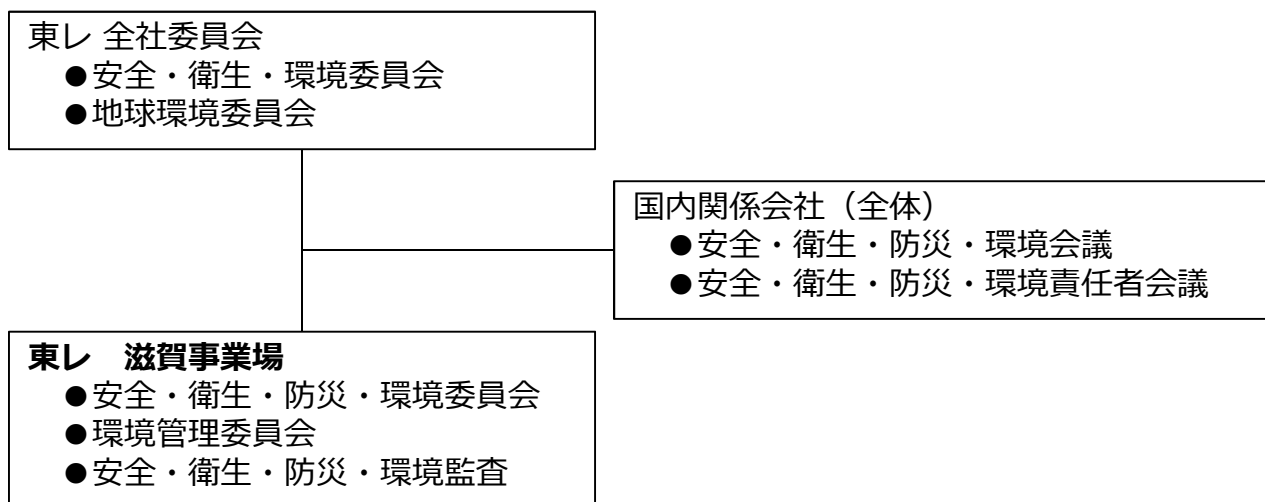
大津市と1976年に公害防止協定を締結し、条例の規制値よりも踏み込んだ基準値を設け、公害防止のための管理と対策を行ってきました。

また、全社プロジェクトである「レスポンシブル・ケア」「廃棄物削減計画」等に対しても、事業場として積極的に取り組んでいます。

1999年には構内関係会社を含めてISO14001の認証を取得し、環境目的・目標を掲げて活動しています。

さらに、2000年には公害防止協定に替わり環境保全協定を締結しました。今後も環境保全から環境改善へと活動を推進していきます。

■東レ株式会社 環境保全の推進体制



■沿 革

1969年	公害委員会（現：安全衛生環境委員会）設立	2000年	環境3カ年計画策定、開始 環境保全協定締結
1970年	環境技術課（現：環境保安課）設立	2002年	「環境管理実施事業所」（大津市） 認定
1971年	公害防止技術相談室設立	2003年	第2次環境3カ年計画策定、開始
1972年	全員参加による「園山公園」作り	2006年	発電ボイラーガス化
1973年	環境管理規程、緑化基本方針制定	2007年	第3次環境3カ年計画策定、開始 ガスタービンコージェネレーション 設備導入
1974年	瀬田川監視室設置	2009年	(社)滋賀県環境保全協会会長表彰 (環境保全優良事業所)受賞 新排水処理設備設置
1975年	滋賀県緑化コンクールで「金賞」受賞	2011年	第4次環境中期計画策定、開始
1976年	公害防止協定締結	2012年	滋賀事業場ゼロエミッション達成
1979年	化学物質安全指針制定	2016年	第5次環境中期計画策定、開始
1981年	エネルギー技術室設置	2017年	(社)滋賀県環境保全協会会長表彰 (環境保全優良事業所)受賞
1990年	産業廃棄物削減プロジェクト開始	2018年	「東レグループ サステナビリティ・ ビジョン」公表
1991年	地球環境委員会、地球環境研究室設置 工場緑化推進全国大会で「通産大臣賞」受賞		
1993年	安全・防災・環境監査開始		
1995年	日本レスポンシブル・ケア協議会に参加		
1998年	国内関係会社安全・防災・環境監査開始		
1999年	廃棄物第2次削減計画策定、開始 ISO14001認証取得、同認証取得支援事業開始		

ISO14001登録書（適用範囲）

複写



ISO 14001

マネジメントシステム登録証






登録証番号：JQA-EM0527

登録事業者：
東レ株式会社
滋賀事業場
滋賀県大津市園山一丁目1番1号

当機構は、上記事業者の環境マネジメントシステムを審査した結果、付属書に記載する範囲において、下記規格の要求事項に適合していることを証します。

ISO 14001 :2015 / JIS Q 14001 :2015

登録日：1999年 9月 24日
登録更新日：2020年 9月 24日
有効期限：2023年 9月 23日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認する必要があります。



一般財団法人 日本品質保証機構
東京部千代田区有明3-2-5
理事長 小林 憲明



20.08 07501177

複写

ISO 14001

付属書



登録証番号：JQA-EM0527 1 / 2

登録事業者：
東レ株式会社
滋賀事業場

登録活動範囲：

- 1) ポリエステルフィルム・ポリオレフィン発泡体・繊維補強複合体などプラスチック製品の研究、開発、製造
- 2) 不織布及び合成繊維の研究、開発、製造
- 3) LCD用カラーフィルター、電子情報材料関連機材、オプティカル製品、アメニティー製品、医療材料、地球環境関連材料の研究、開発、製造
- 4) 機能材料の開発、製造
- 5) 各種産業用設備・機械・装置・器具の開発、製造

関連事業所：

- ・東レ・オペロンアックス株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番2号
[ポリウレタン弾性繊維の研究、開発、製造]
- ・東レエンジニアリング株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
[各種産業用設備・装置・機械・器具の設計及び製造並びに滋賀事業場内の施工管理]
- ・東レ建設株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
[滋賀事業場内の建屋新築・増築・改修・保全工事管理]

登録日：1999年 9月 24日
登録更新日：2020年 9月 24日
有効期限：2023年 9月 23日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認する必要があります。



一般財団法人 日本品質保証機構
理事長 小林 憲明



14.07 07501033

複写

ISO 14001

付属書



登録証番号：JQA-EM0527 2 / 2

- ・株式会社 東レリサーチセンター
滋賀県大津市園山三丁目3番7号
[受託分析業務]
- ・東レテクノ株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
[環境分析、環境調査、材料分析]
- ・株式会社 東レシステムセンター
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
[コンピューターによる情報処理業務、ソフトウェアの開発]
- ・滋賀殖産株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
[滋賀事業場内の作業員負と各種事業]

登録日：1999年 9月 24日
登録更新日：2020年 9月 24日
有効期限：2023年 9月 23日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認する必要があります。



一般財団法人 日本品質保証機構
理事長 小林 憲明



14.07 07501033

環境方針

1. 環境関連の法規制および事業場が同意した地域、お客様、その他の要求事項を順守し、組織の状況、事業活動に関わる環境影響を常に考慮して、環境保全活動を推進します。
2. 汚染の予防を推進し、省エネルギーや廃棄物の削減に努め、生物多様性を考慮し、環境影響の最小化を積極的に進めます。また、環境に貢献できる製品やサービスの提供を目指します。
3. 環境目標を設定し、定期的に見直しを行い、環境パフォーマンスの継続的な改善を図ります。
4. 日本最大の面積を有する琵琶湖の恵みを受けている地域であることを認識し、排水の水質維持管理に努めるとともに、地域の環境保全活動に積極的に参画します。
5. この環境方針は、事業場で働く人々に周知徹底するとともに、一般に公開します。

制定：1999年2月1日 改訂：2017年4月1日
滋賀事業場長

環境目標		
1	廃棄物排出により生じる環境影響の最小化	○総廃棄物量の削減 ○単純処分廃棄物量の削減 ○ゼロエミッション達成（単純処分率1.0%以下）
2	省エネルギーの推進による地球温暖化防止	○エネルギー費用の削減 ○CO2排出削減
3	法順守の継続および環境異常発生の未然防止	○環境に関する異常件数の削減 ○是正・予防処理の確実な実行
4	有害物質の排出により生じる環境影響の最小化	○化学物質使用施設の適切な管理 ○マイクロプラスチック漏出防止対策の実行 ○法・その他から要求される有害物質の削減
5	本来業務活動の推進による環境負荷活動低減	○有益な環境側面関連する取り組みについて各部門で設定

環境トピックス

当事業場では、1999年9月の環境事故を風化させないために、9月を「環境管理強調月間」として例年活動しています。活動の一環として毎年9月に「環境改善事例発表会」を開催し、優れた改善事例を表彰するとともに、各部門から他部門へ水平展開出来る事例等について発表を行い、一人ひとりが環境保全意識の重要性を再認識し、環境事故ゼロへの誓いを新たにしています。

滋賀事業場「環境の日」

1999年9月13日、研究東地区にある製造工程において、**強酸性の洗浄水を近くの雨水溝に流してしまい**、その水が狐川に流入して魚が大量に死亡するという排水事故が発生しました。
この事故は、新聞やテレビなどマスコミでも報道され、東レの信用を著しく失墜させました。

排水事故を風化させないために・・・

- ・ 毎年9月13日 「環境の日」
- ・ 毎年9月 「環境管理強調月間」

環境事故を風化させないための教育を実施（資料一部抜粋）

水質汚濁防止

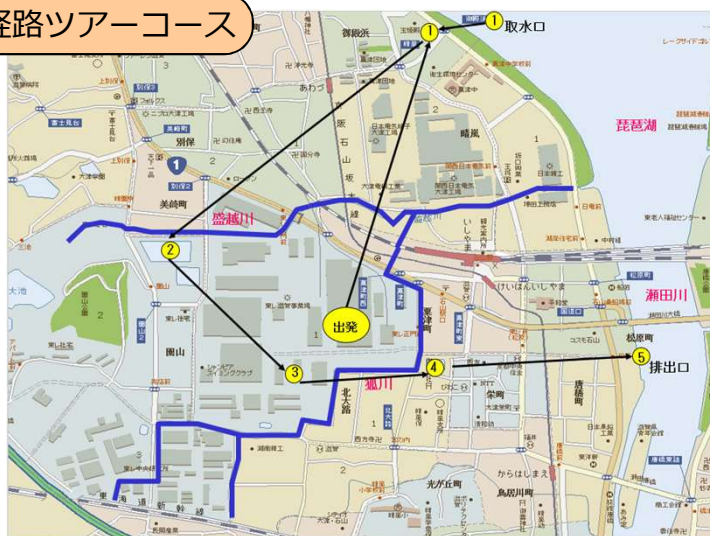


排水の監視
(魚の動きによる有害物質の検知)

当事業場では、琵琶湖の水を工業用水として購入し、事業活動で利用した後、必要な処理を行い、瀬田川に排出しています。

排水は、主な監視ポイントでpH、油、濁度、有害物質などを連続監視し、規制値より低い値で維持管理していますが、さらにプロセスの見直し、処置設備の効率的な運転に努めています。

水経路ツアーコース



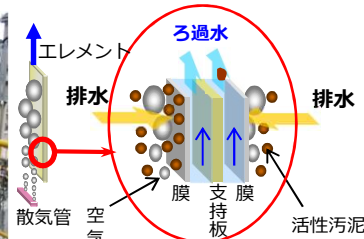
また、工場で使用する水に対する従業員の意識を高めるため、琵琶湖からの供給、場内での処理、瀬田川への排出を自分の目で見て確かめる「水経路ツアー」を行っています。

◆自社技術を使用した排水処理設備の設置運転◆

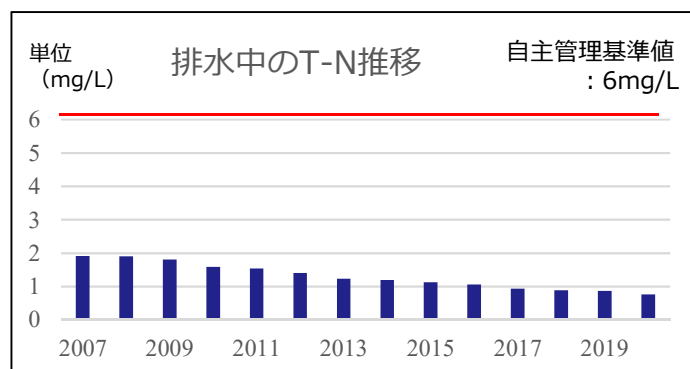
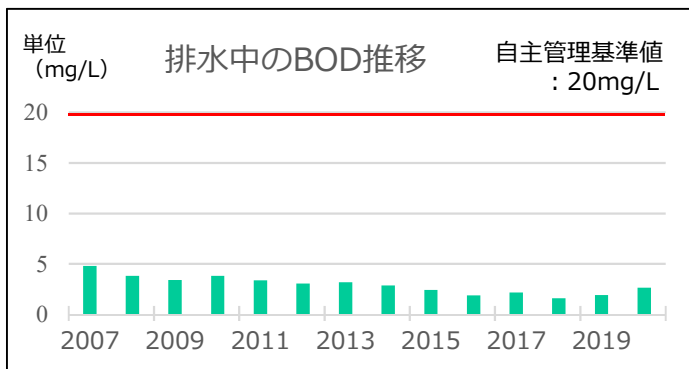
排水処理能力の不足による臭気発生を防止し、処理後の水質をより良くするため、2009年から**自社技術**を用いた設備を設置し排水を処理しています。この設備は微生物の働きを利用し、MBR法(Membrane Bio-Reactor 膜分離活性汚泥法)を採用した排水浄化システムです。

MBRの膜は東レ製で、従来の活性汚泥法より省スペースで、より良好な処理水が得られます。

MBR排水処理設備



MBR膜濾過のイメージ



■用語、解説

- ・BOD(生物化学的酸素要求量):最も一般的な水質指標。有機物などを、微生物が分解に必要とする酸素量。値が大きいくほど、水質は悪化傾向である。
- ・T-N(全窒素):水中に含まれる窒素化合物の総量。富栄養化の目安項目。

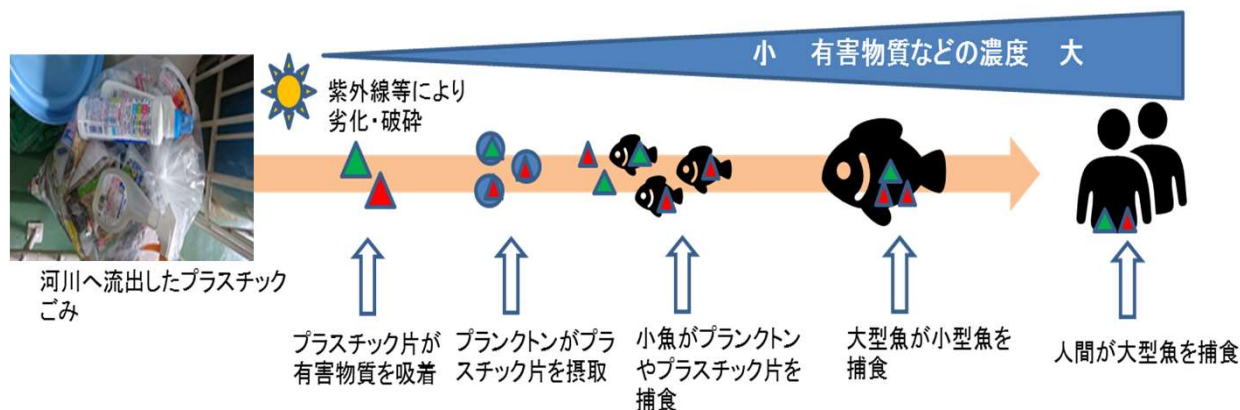
水質汚濁防止

◆マイクロプラスチック問題への取り組み◆

現在、マイクロプラスチックごみについては、世界で注目され問題視されています。大型プラスチックごみは紫外線の影響等により劣化し、細かく破碎されることで生物が餌と誤認し、補食されます。このような微量な粒子は、生物の体内に取り込まれることで消化ができず、生物の体内にプラスチック製品や有害物質が蓄積される可能性があります。

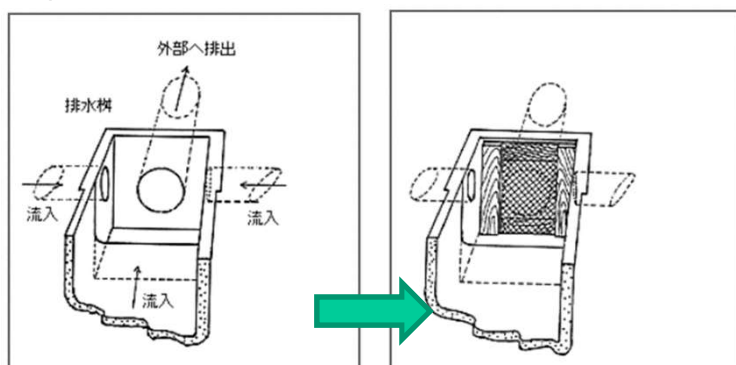
当事業場においてもマイクロプラスチック問題に、早期に対応していく必要があり、2020年度より環境活動方針に定め、プラスチック類の漏出防止対策を推進しております。

生態系へのダメージ（生物濃縮）※イメージ

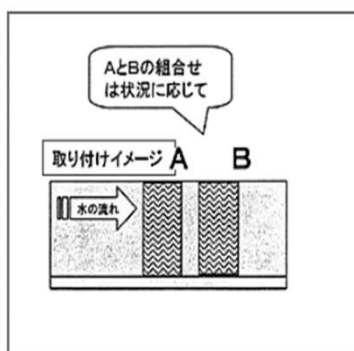


◆排水路へのプラスチック類漏出対策◆

例) フィルターの1重化



例) フィルターの2重化



プラスチック漏出懸念のある排水路へ漏出防止金網(目開き1~2mm)を設置し、漏洩防止の展開を開始しております。

◆連続監視◆

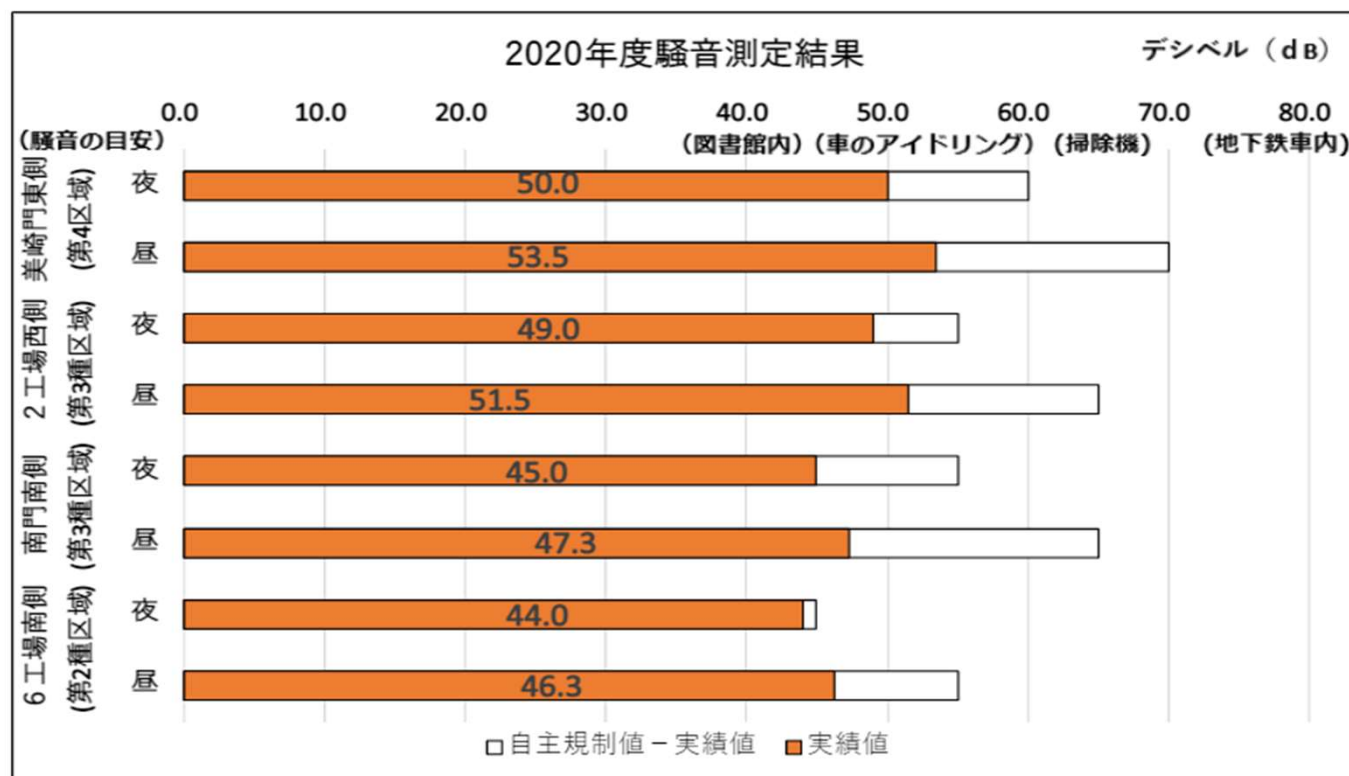


事業場総合排水排水管からサンプル水を吸い上げ、プラスチック類が混入していないかを連続監視する取り組みを実施しております。

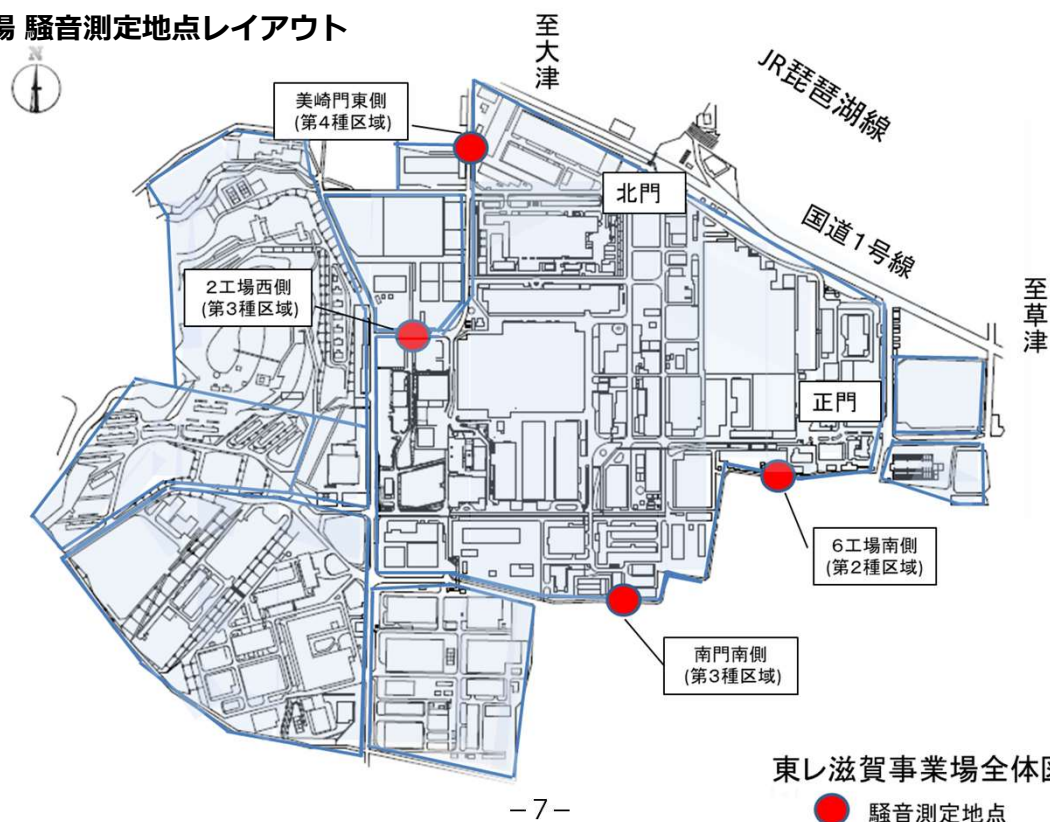
漏出対策引用元：日本プラスチック工業連盟

騒音防止

滋賀事業場は住宅街に隣接しており、騒音により地域住民の生活環境に影響を及ぼすことが無いよう、周辺4箇所では1回／3ヶ月、騒音測定を実施し、大津市条例（大津市生活環境の保全と増進に関する条例）に基づいた自主規制値を下回るよう管理しています。今後も継続して測定を実施し、適切な対策を講じることで快適な生活環境の保全に努めていきます。



■ 滋賀事業場 騒音測定地点レイアウト



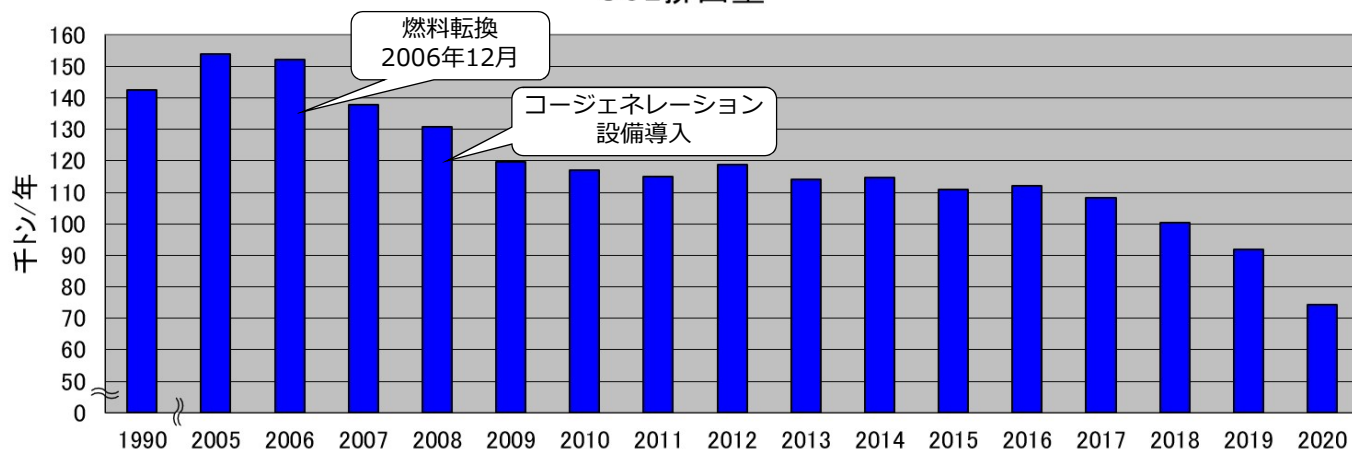
大気汚染防止と省エネルギーの推進

当事業場では、2007年～2008年に都市ガスを燃料とした高効率のコージェネレーション設備を導入し、更にディーゼル発電機の運用を停止することで排出SOxゼロを達成するとともに、CO₂排出量を大幅に削減しました。また、継続的な環境負荷低減を狙い、部署毎に毎年の省エネ目標を定め、事業場一丸となって省エネやエネルギー原単位低減に取り組んでいます。

ガスタービンコージェネレーション設備



CO₂排出量

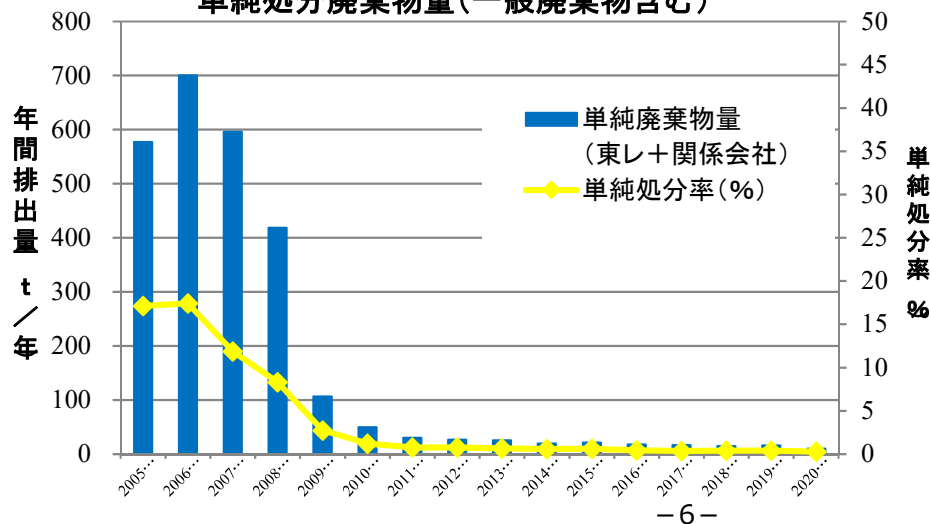


産業廃棄物の削減

東レグループでは、1990年度から「廃棄物削減プロジェクト」をスタートし、3～4年単位で削減目標を定め、廃棄物の有効利用や発生量の削減に努めてきました。

2011年度からは、ゼロエミッション(※)などの目標を掲げ、さらなる分別の強化、工程の改善、有効利用の検討などの活動を継続的に推進し、以降毎年、ゼロエミッションを継続して達成しています。※単純処分廃棄物量(埋立、単純焼却など)が総廃棄物発生量の1%以下

単純処分廃棄物量(一般廃棄物含む)



産業廃棄物はセメント原料や路盤材として使用されます。

廃棄物の処理

化学物質の排出・移動量の管理（PRTR）

当事業場（構内関係会社含む）で扱うPRTR法（※）の2020年度の対象物質は、昨年同比から1物質減少し合計10物質でした。

化学物質の環境中への排出量については、削減方針を定め計画的な削減を進めています。

[単位：kg/年]



化学物質の排出削減対策
(溶剤回収装置)

	物質名称	排出量			廃棄物 移動量
		大気	水域	自社埋 立・土壌	
東 レ （ 株 ）	クロロベンゼン	0	0	0	2,900
	N,N-ジメチルホルムアミド*	35	0	0	110
	トルエン	750	0	0	13,000
	クロロベンゼン	0	0	0	1,500
	銀及びその水溶性化合物	0	0	0	22
	m-アミノフェノール	0	0	0	110
	4,4'-ジアミノジフェニルエーテル	0	0	0	230
	N,N-ジメチルアセトアミド*	2	0	0	780
	ジメチルベンゼン	0	0	0	0
	メチレンビス(4,1-フェニル)=ジイソシアネート (メチレンビスフェニルイソシアネート)	0	0	0	3,000
構 内 社 関 係	エチレンジアミン	0	0	0	40
	N,N-ジメチルホルムアミド*	300	0	0	100
	N,N-ジメチルアセトアミド*	13,000	0	0	49,000
	メチレンビス(4,1-フェニル)=ジイソシアネート	0	0	0	0

※PRTR：人の健康や生態系に有害な恐れがある化学物質が、環境中へどれくらい排出しているか、廃棄物として移動しているかを事業所ごとに届出し、その結果を公表する仕組みのことです。PRTRという言葉は、「Pollutant Release and Transfer Register」の略です。

環境会計

東レでは1999年度から、環境保全・省エネルギー・リサイクルなどに関する投資・コストを集計する環境会計を導入しています。当事業場における2020年度の実績は、環境投資額が約1,000万円、環境関連費用が約6億9千万円となりました。

項目	内容	投資額 (百万円)	費用 (百万円)
公害防止コスト	大気	0.0	13.9
	水質	10.0	118.6
	騒音・振動	0.0	7.4
	緑化	0.0	57.8
	悪臭・その他	0.0	1.8
地球環境保全コスト	省エネ 地球温暖化防止	0.0	-
資源循環コスト	廃棄物 再資源化、処分	0.0	463.3
管理活動コスト	間接労務費 ISO認証維持 環境広報・教育	-	36.8
合 計		10.0	699.6

*PCB特措法に伴う高濃度PCB最終処分年度につき、処分費用が増加。

労働衛生への取り組み

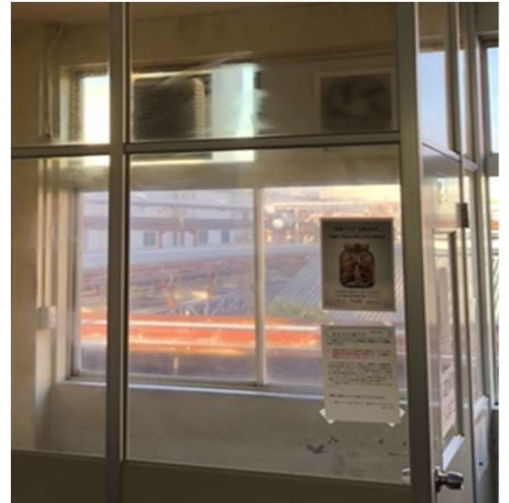
■受動喫煙防止対策（改正健康増進法：2020年4月）

原則、屋内禁煙が施行され、望まない受動喫煙の防止を図るため、喫煙場所の整備（屋内喫煙場所の廃止、または受動喫煙防止措置がとられた喫煙専用室への仕様変更など）を実施しました。

事業場内で働く全ての人が、受動喫煙が健康に害を及ぼすことを認識し、『社員と社員のその家族の幸せ』のために健康確保と快適な職場環境の形成を目指します。

*受動喫煙防止措置（換気扇風量アップ）

受動喫煙対策とし、換気扇の風量（風速0.2m/S）を確保することで、扉開閉時にタバコの煙が同一居室へ流出しない対応を実施。



受動喫煙防止措置がとられた喫煙専用室

■労働衛生意識の向上活動

例年10月の労働衛生週間に合わせ、従業員の労働衛生意識向上のための啓発活動を実施しています。2020年度は、メンタルヘルスケアの啓発や、コロナウィルス対策の一環とし、手洗いチェック活動を展開し従業員の感染予防意識の高揚を図りました。

今後も従業員の労働衛生意識の向上のための施策に継続的に取り組んでいきます。

■あいさつの施行によるマナー向上/コミュニケーション改善

当事業場では、あいさつは基本的なマナーとして、ご来場をいただいたお客様はもとより、従業員同士のコミュニケーションを高め一体感のある事業場にすることを目指して、事業場内のメイン通りでのあいさつを奨励しています。



事業場内メイン通りへの「さわやかあいさつ通り」ステッカー貼り付け

地域社会とのコミュニケーション

環境美化、施設見学などを通じて、地域社会とのコミュニケーションの充実を図っています。



地域の清掃

「びわ湖を美しくする運動」の一環として毎月事業場周辺の河川や道路の清掃を行っています。



びわこクリーンキャンペーン

毎年、秋に瀬田川周辺の清掃活動を行っています。



施設見学

近隣小学校の施設見学受け入れを実施しています。



東レスタジアムでの催し

社員や家族、地域の方々など多くの方々に、各部署が工夫を凝らした模擬店で楽しんで頂いています。

* 写真は2019年のもの。
2020年度は新型コロナウイルス感染防止のため未実施。

◆ 大津市環境管理実施事業所認定 ◆

大津市生活環境の保全と増進に関する条例第107条第1項の規定により、一定の基準に適合する事業者の申請に基づき、大津市長が認定するものです。



地域社会とのコミュニケーション

●女子バレー東レアローズ



バレーボール教室

女子アローズによるバレーボール教室を地域の子供達に行っています。

東レ女子アローズの活躍[歴史]*直近のみ掲載

2000年9月 東レ滋賀事業場にてチームを創設。
* 7月活動休止：コロナ・フェニックスを引継ぎ

2013/14 V.LEAGUE3位

2014年 第63回黒鷲旗全日本男女選抜
バレーボール大会準優勝

2014/15 V.LEAGUE6位

2015/16 V.LEAGUE3位

2016/17 V.LEAGUE6位

2017/18 V.LEAGUE6位

2018/19 V.LEAGUE準優勝

2019年 第68回黒鷲旗全日本男女
選抜バレーボール大会優勝

2020/21 V.LEAGUE準優勝

●その他競技（ボート部、柔道部、剣道部）



第66回 全日本産業別柔道大会



その他社技として、活動しているボート部、柔道部、剣道部も優秀な成績を残しつつ、それぞれ地域貢献として、子供達への指導などを行っています。

安全・防災への取り組み

東レグループでは、安全・防災・環境保全を最優先課題としており、日常の安全活動に加え、毎年7月の「ゼロ災大会」の開催や、新入社員・職長・管理者など層別の教育、酸欠特別教育、疑似体験装置を用いた危険体感など、様々な安全活動を行い、従業員の安全意識の向上と安全な職場づくりを行っています。

■事業場ゼロ災大会

当事業場では、全国安全週間に合わせて毎年ゼロ災大会を開催し、各部署の安全活動を共有するとともに、安全スローガン「安全最優先 ゼロ災追求 -意識を高め 基本の徹底-」を事業場全体で徹底する契機としています。



安全提案表彰



安全活動報告

■安全に対する教育

疑似体験教育として、各装置（回転体など）の危険性を模擬的に再現した疑似体験装置を用いて教育を実施することで、従業員の危険感受性向上に努めています。



疑似体験教育風景

■安全・防災に関する主な表彰・記録

- ・1999年 優良危険物関係事業所（消防長官賞）
- ・1999年 第1種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2000年 第2種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2003年 第1種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2004年 第2種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2004年 優良自衛消防隊表彰（滋賀県）
- ・2009年 優良事業所（(社)滋賀県防火保安協会連合会長表彰）
- ・2010年 第1種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2011年 第2種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2012年 第3種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2015年 第1種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2016年 第2種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2017年 第3種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2018年 第4種無災害記録（厚生労働省 記録証）

優良自衛消防隊表彰（滋賀県）



安全・防災への取り組み

■防災に関する教育訓練

工場の中ではさまざまな原料、薬品、製品などを取り扱っています。私達は、万一の火災・爆発に備え、日常的な管理・点検を行うとともに、定期的に教育や訓練を行い、従業員の知識と技術の向上に努めています。



公設消防(大津市南消防署)の指導のもと自衛消防隊の初期消火訓練

大規模地震を想定した総合防衛訓練



事業場内被害状況の集約訓練

防災教育：爆発実験



危険物などがどのような状態で着火するかなどを実際に実験する教育

災害対策用小型造水機「トレスキュー」



当事業場では各種災害対策用アイテムを準備し、災害への備えを実施しています。
「トレスキュー」は当社水処理膜を使用した災害対策用の造水機です。約1,600人分の飲料水を作ることができます。

緑 化 推 進

滋賀事業場では、東レグループ緑化基本方針に基づき生物多様性に配慮した樹林の保全や、周辺環境との調和に配慮し、緑化を推進しています。事業場西側に広がる園山公園緑地は従業員の憩いの場となっていることに加え、地域の方々にも開放し、親しまれています。また、工場立地法で求められる緑地面積率は20%を超えており、これを維持することで緑が多く自然豊かな事業場を目指しています。

■東レグループ緑化基本方針

- A. 生物多様性に配慮した自然生態に近い樹林方式で緑化を進め、地域の自然環境保全にも貢献します。
- B. 工場敷地境界部分を優先的に樹林方式で緑化し、「森に囲まれた工場」を目指します。
- C. 緑地面積率は各国・地域の規制や周辺環境との調和に配慮し、各工場毎に目標を設定して緑化を推進します。

■園山公園緑地（自然公園型緑地）の保全」

園山公園緑地（自然公園型緑地）は従業員の憩いの場となっていることに加え、地域の方々にも開放し親しまれている場所であり、今後も良好な状態に保ち、地域の自然環境保全に貢献します。





Innovation by Chemistry

東レグループCSRレポート2021

PDFダウンロードページURL：

<https://www.toray.co.jp/sustainability/download/>

内容に関するお問い合わせ先

東レ株式会社滋賀事業場 環境保安課

TEL:077-533-8044 FAX:077-533-8680

発行 2021年12月